

「総ぐるみ」新聞

平成二十三年新春「初釜」に招かれて

小泉 宗信

一月十日、西洗自治会館にてNPO総ぐるみ福祉の会の初釜が開催されました。私は、茶道教室を閉じて、いささか淋しさを感じていたこの正月でしたが、初釜にお招きいただき、心嬉しく伺いました。

二階の茶室に入りますと、正面の置き床には、三玄院長谷川寛州老師のお筆による「松樹千年翠」の墨跡が掛けられ、その脇に大だれの結び柳が長く床まで枝垂れて、お正月の雰囲気醸し出しておりました。

床上には仁清の羽子板香合、脇床には備前徳利に、黄金色の千両が品良く活けられて、さすが大橋先生のお席と感服しました。緋毛氈に座ってお祝い酒とお弁当をいただき、席を改めてお茶席になりました。

お道具は、台子にしめ縄を張り、唐胴皆具という格調高いしつらえで、お正月のお菓子いしかわさんの「花びら餅」は、ほど良い甘さでした。

「花びら餅は宮中の年賀で用いられた三献の肴を菓子に応用したそうです」

大橋先生のお点前によるお茶を頂戴しました。お茶碗は、外面に百歌仙、内面には百人一首がびつしりと書かれた見事なもので、松尾さんの御母上御遺愛の品と伺いました。



お点前も終わり、茶入れと茶杓の拝見を乞いました。黒柿の中次ぎの茶入れと、輪島の朱塗りの茶杓が、華やかなお正月らしい取り合わせで、嬉しいことでした。続いて、宮崎さん、重高さん、松尾さんにもお点前をしていただき、春の一日を楽しみました。

大橋先生、宮崎理事長、またお水屋の手賀さんやお手伝いの方々に、深く感謝いたしました。

す。なお、途中休憩の時、隣室の窓から見える富士山に向かつて、朗々と「富士山」を吟じてくださった松永さんも、この日に楽しい華を添えてくださいました。一柳さんの車による送り迎えは、老人をいたわる心遣いに満ちていて、総ぐるみ福祉の会の発展理由が判ったような気がしました。

す。

皆様、ありがとうございました。

●初釜で今年の幕開き

菊地 幸子

この日は、茶室として会場を整えるために、河西さん、寺島さん、雨宮さんをはじめ大勢の方が、座敷を清めたり、お道具類を運び込んだりして、大忙しでした。

初釜とあって、和服姿のお客様が次々にお越しになりました。皆様前日は、着物選びであれこれ迷われたことでしょう。着物こそ、日本人の体型を生かした衣服で、大橋さん、宮崎理事長の着物姿は、いつもとは違って、あでやかな美しさでした。

会場を着物に着替える方もあり、着付けを手伝ったり、帯を結び直してあげたりしているうちに、開会の時刻になりました。

宮崎理事長のご挨拶があり、続いて大橋さんのお点前が始まり、花びら餅と心のこもったお抹茶を一服いただきました。お道具拝見で見せていただいた茶入れは、瓢箪が六つで無病息災を意味し、元気で一年を過せるようにという意味があるそうです。

隣の洋室で金粉の入ったお酒で乾杯し、美味しいお弁当をいただきました。窓から真っ白な富士山を眺められましたし、皆様とお逢いできて、とても楽しい一日でした。今年も、日限山荘の食事作りや趣味の編

2月の日限山荘は、1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25日のam10:00~pm4:00まで開催しています。

物・布ぞうり作りなどに、皆様とがんばるつもりですので、よろしく願います。

●初釜に参加して 寺島 住江

一月十日成人の日に、初釜が行われ、新年にふさわしい幕開けとなりました。皆様のあてやかな着物姿に、成人式が重なり、何回目の成人式??と想像してしまいました。

宮崎理事長のご挨拶には、昨年の病気から復帰された万感の想いが伝わってきました。

お茶室には緋毛氈が敷かれ、正面には「松樹千年翠」という素晴らしい掛け軸と六角柳が飾られ、千両に椿が活けられていました。茶道をたしなまれている先輩方の立居振るまいは、素人の私には輝いて見えました。

八寸の山海料理とお神酒に続いて花びら餅とお抹茶を一服いただき、隣の洋室で、お取り寄せのお弁当と、金粉入りのお酒をいただきながらの談笑となりました。窓からは雪をいただいた富士山が眺められ、歌も始まって、松永さんの詩吟を拝聴しました。

食後にもう一服、山地さん差し入れの富士山の絵模様の羊羹と、京干菓子を美味しくいただきました。

大橋さんをはじめ、茶道をたしなまれている先輩の皆様、ありがとうございました。厳かな中にお茶席に暖かさを感じ、楽しいひと時を過ごすことができました。

総ぐるみ福祉の会に参加して二年目になります。宮崎理事長の活動に惹かれ、日限山荘の昼食作りを、先輩方のご指導をいただきながら、金曜日を中心に行っています。今年もよろしくお願い申し上げます。

NPO総ぐるみ福祉の会 新春イベント

2月20日(日) 午後2~4時

まつぎき幸介コンサート

於：西洗自治会館1階ホール

入場料：無料

日限山4丁目にお住まいのまつぎき幸介さん、以前納涼大会で歌われた美声を覚えていらつしやる方も多いことでしょう。このたび、左記の予定でコンサートを開いてくださいます。今回、地域との係わりを中心に、次のような自己紹介をご寄稿くださいました。

昭和39(一九六四)年、現在の都筑区川和町で生まれ、幼少から港南区に在住しました。日限山小学校時代には歌謡曲が大好きでした。ところが、日限山中学生になると従弟の影響でフォークに目覚め、かぐや姫やふきのとうにハマっていました。野庭高校に進学すると、ロックバンドに参加して、ドラムを叩くロック青年へと成長しました。高校の同級生には、女優の高島礼子さんがいます。

高校卒業後、中央大学商学部に進みます。在学中の4年間、スナックでアルバイトをしながらカラオケで演歌の世界に親しむものの、卒業後は父の建築設計事務所に入社、働きまくりの10年間を過ごしました。

30代後半になってから、ひよんなきっかけで歌のレッスンを受け始め、カラオケ大会を経てプロ歌手としてデビューしました。

平成十八(二〇〇六)年に『SAKE/鎌倉残照』を、本名の松崎英樹名義でリリース。翌年には「まつぎき幸介」に改名して、これまでに5枚のシングルを発表しました。

神奈川エリアのかなりの店で、発売から4年たった現在でもよく歌われて、通信カラオケの上位に入っている『鎌倉残照』の歌詞は次のようです

二人で歩いた 由比ヶ浜

その手に乗せた さくら貝

遠い日の切なさ 連れて来る

今も変わらぬ 波の音・・・

ああ青春が 暮れなずむ

鎌倉は 鎌倉は 想い出の街

現在私は、月間40~50本のキャンペーンやライブを、たった一人でマネージメントし、キャリアバッグを引いて回りCDを手売りして生計を立てながら、専門学校で建築CADやデザイン、企画の講師も勤める、異色の歌手です。

平成二十二(一九一〇)年12月リリースの「一夜花」は、ゆうせんリクエスト全国チャートで25位を獲得。現在も上位をキープ中です。



2月20日のコンサートに、ぜひ多数の方々がご参加くださるよう、お待ちしております。

「NPO 総ぐるみ福祉の会」のホームページ(<http://sougurumi.jp/>)をぜひご覧ください。

編集：藤井 香代